

『ムツェンスク郡のマクベス夫人』参考資料のご案内

新国立劇場でのご観劇前には作品に対する理解の一助として、
また、観劇後の感動をさらに深めるために、
5階情報センター閲覧室にてご覧いただける参考資料を紹介します。
ぜひお気軽にお立ち寄りください。

参考図書

<作品関連>

シヨスタコーヴィチ(作曲家◎人と作品シリーズ) 千葉 潤=著/音楽之友社 2005年発行

人間シヨスタコーヴィチの生き様を余すところなく活写し、作品の真価を問い直した、新時代のシヨスタコーヴィチ評伝。「生涯篇」「作品篇」「資料篇」の3部構成。

シヨスタコーヴィチ(作曲家別名曲解説ライブラリー) 音楽之友社=編/音楽之友社 1993年発行

Lady Macbeth von Mzensk : komische oper berlin 独語

ベルリン・コーミッシェ・オーパーの2005年1月公演のプログラム。

岩波文庫 真珠の首飾り 他二篇

ニコライ・セミョーノヴィチ・レスコフ=著/岩波書店 2007年発行

『ムツェンスク郡のマクベス夫人』の原作を収録。

<作曲家関連>

シヨスタコーヴィチ ある生涯

ローレル・E. ファーイ=著/藤岡啓介・佐々木千恵=訳/アルファベータ 2005年発行

著者ファーイが、シヨスタコーヴィチ自身の書簡、コンサートのプログラム、当時の批評、新聞記事、同時代人の日記などの一次資料を採り当て、相互の矛盾を整理した上で、作曲家の生涯と全作品の成立過程を明らかにする。

中公文庫 シヨスタコーヴィチの証言

ソロモン・ヴォロコフ=著/水野忠夫=訳/中央公論新社 2001年発行

シヨスタコーヴィチが、死後国外での発表を条件に、スターリン政治に翻弄された芸術家たちのしたたかな抵抗と過酷な状況を語る。晩年に音楽学者ヴォロコフが聞き書きして編んだ、真摯な回想録。

ユーラシア選書 シヨスタコーヴィチ全作品解説 工藤庸介=著/東洋書店 2006年発行

シヨスタコーヴィチをめぐる話題(社会主義リアリズム、「ブラウダ批判」など)、全作品の解説と推薦盤、詳細な人名索引などの資料編で構成。

ユーラシア・ブックレットNo.91 シヨスタコーヴィチ 揺れる作曲家像と作品解釈

梅津紀雄=著/東洋書店 2006年発行

社会主義～冷戦という状況下におけるシヨスタコーヴィチの創作活動と、難解と思われがちである代表的な作品紹介を主に構成。

シヨスタコーヴィチ自伝 時代と自身を語る

レフ・グリゴリエフ ヤーコフ・ブラデーク=編/ラドガ(虹)出版所 1983年発行

原文は1980年にソ連で刊行。「自伝」とあるが、正確には、シヨスタコーヴィチが生前にさまざまな媒体に発表した文章などを年代順にまとめたもの。後世の研究者にとって貴重な「第一次文献」である。

わが父シヨスタコーヴィチ—初めて語られる作曲家の素顔 音楽之友社 2003年発行

ガリーナ・シヨスタコーヴィチ マキシム・シヨスタコーヴィチ=語り/ミハイル・アールドフ=編/田中泰子=監修

ロシアの権威ある文芸誌『新世界』の連載の翻訳で、二人の子どもたちが語ったシヨスタコーヴィチの真実の姿・心を、友人のアールドフがまとめたもの。初めて公開する貴重な写真も満載。

シヨスタコーヴィチ大研究 春秋社 1994年発行

イデオロギーの桎梏を超えて激動の20世紀をしたたかに生き抜いた歴史の証言者シヨスタコーヴィチー。暗号、引用、DSCH、『証言』…、音楽と生涯に秘められたさまざまな謎を徹底的に解読する。

隣のロシア スターリンと芸術家たち 亀山郁夫=著/岩波書店 2002年発行

シヨスタコーヴィチを含むスターリン時代の6人の芸術家の生死について、裁判記録、検事調書、もろもろの証言や作家自身の遺作を解読し、その真相に迫る。やや雑駁な印象はあるものの、大胆な仮説も交えて興味深く読むことができる。

DVD

歌劇「カテリーナ・イズマイロヴァ」映画版 ('66 キーロフ・オペラ)

カテリーナ:ガリーナ・ヴィシネフスカヤ、セルゲイ:A. イノゼムツェフ(演技)/V. ドレティヤーク(歌)

(注)『ムツェンスクのマクベス夫人』は初演の2年後の1936年、スターリンのいわゆる「プラウダ批判」によりソ連での上演は不可能となった。スターリン死後、1953年に党中央本部委員会から「オペラの表現を穏当なものに改め表題を変えれば上演を許可する」と打診され、1963年改訂版としてこの『カテリーナ・イズマイロヴァ』を上演した。